

国語辞典に「古い」と注記される語の 現代書き言葉における使用傾向の調査

柏野和佳子[†] 奥村学^{††}

いわゆる古い語は、国語辞典に「古語的」「古風」といった注記がされている。しかしながらそういった注記のつく語の実際の使用には幅があると思われるため、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(国立国語研究所)においてそれらの語の使用を調査した。その結果、明らかに用例が少ない、時代小説などに限られる、著者の生年が早い、といった傾向を示す語が多いことが確認できた。その一方、現代語同様に広く一般に使われている語もあった。

The Use of the Words Annotated as Archaisms in a Japanese Dictionary in Modern Written Language

Wakako Kashino[†] and Manabu Okumura^{††}

Old words, when included in Japanese dictionaries, are often annotated as "archaic" or "obsolete". However, the actual use of those words varies depending on the individual word. In this paper, we investigate the use of such words using the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ). As a result, we show that the old words can be classified into some categories such as (1) already extinguished, (2) used only in historical novels, and (3) written by authors who lived long ago. We also find that some words are still widely used just as the modern words.

1. はじめに

国語辞典や類語辞典には、位相情報と呼ばれる注記が記載されている。たとえば、「古語、俗語、雅語、文語、口語」といったものである。前坊(2007)によると、国語辞典18種、類語辞典4種を調べたところ、位相に関する注記が20種類存在するが、1つの辞典において付与される種類は4~7種類程度であるという。辞典によって位相情報の記述にばらつきが大きいという問題点や、より豊富で詳細な位相情報の必要性などが指摘されてきた(宮島1997, 後藤2000)。

位相情報に限らず、これまで辞典の記載情報は、辞典編纂者による用例収集や内省によって記述されてきた。しかしながら、欧米におけるコーパス分析による辞典編纂の先行事例の刺激もあり、近年、日本においても、様々なコーパスが構築されるに伴い、コーパス分析を辞書記述に活かそうとする議論が活発になってきている(加藤1998, 後藤2002, 石川2006, 田野村2009, 荻野綱男編2010など)。

筆者らは、先に、従来の国語辞典は、和語や漢語の表記に関し、異なる漢字表記がある場合に、個々の使い分けを示すものや、ひらがな表記の傾向を示すものはいくつもあるが、カタカナ表記の実態まで踏み込んで記述しているものはほとんどない点に着目し、国立国語研究所で構築中の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の収録書籍データを用い、和語や漢語のカタカナ表記の実態を調査、分析し、語によってカタカナ表記傾向のあることを注記するとよい語があることを報告した。

本調査は、コーパス分析を国語辞典の位相情報の記述に活かすことを目的に、国語辞典に「古語的」「古風」といった注記がされている語の使用実態を明らかにしようとするものである。

2. 調査対象のコーパス

本調査で用いたコーパスは、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese; 以下BCCWJと記す)』[a]に含まれる「流通実態(図書館)サブコーパス」である。最初に、BCCWJの構成を述べ、次に本調査で使用するに際して留意すべき特徴について述べる。

2.1 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の構成

国立国語研究所では、1億語の収録を目標にBCCWJの構築が進められている。構築期間は2006~2010年度であり、サンプリング・電子化・著作権処理・形態論情報付与

[†] 国立国語研究所
National Institute for Japanese Language and Linguistics

^{††} 東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

a) 詳細は、<http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/>, <http://www.tokuteicorpus.jp/> を参照。

などの作業が順次進められ、現在最終段階を迎えている。なお、2009年8月より一部に限定的に公開されている「BCCWJ 領域内公開データ 2009」には、約8,200万語のデータが収録されている。

BCCWJは、図1に示す3つのサブコーパス(SC)で構成される。1つめの生産実態(出版)サブコーパスは、書き言葉が生産される実態を把握するためのものである。2001~2005年に出版された全ての書籍、雑誌、新聞が母集団とされ、そこから抽出したサンプルから成る。2つめの流通実態(図書館)サブコーパスは、書き言葉が流通している実態を把握するためのものである。1986年から2005年までの20年間に発行された書籍のうち、東京都内の13自治体以上の公共図書館で共通に所蔵されていた書籍が母集団とされ、そこから抽出したサンプルから成る。そして、3つめの非母集団(特定目的)サブコーパスは、日本語にとって重要でありながら上記2つのサブコーパスには含まれにくいデータ等が特定目的のために収録されるものである。

これらのうち、本調査で用いたのは、「BCCWJ 領域内公開データ 2009」に収録されたうちの、「流通実態(図書館)サブコーパス」である。すでに達成目標分の約3,000万語分の「書籍」のテキストデータが収録されているものである。現時点で利用可能な、もっともまとまった書籍データであるため、このサブコーパスを利用した。

生産実態(出版)SC 書籍, 雑誌, 新聞 出版年: 2001-2005年 約3,500万語 固定長+可変長	流通実態(図書館)SC 書籍 出版年: 1986-2005年 約3,000万語 固定長+可変長
非母集団(特定目的)SC 白書, 国会会議録, ベストセラー, 教科書, 法律, Yahoo!知恵袋 ... 出版・収録年: 1976-2005年, 2001-2005年 約3,500万語 可変長(一部, 固定長+可変長)	

図1 BCCWJの構成

なお、各コーパスは「サンプル」と呼ぶ文章単位で収録される。統計的な言語調査

にも、幅広いテキスト研究にも利用できるよう、収録するサンプルの長さは2種類設計された。一つは、1サンプルの長さを1,000字とする「固定長サンプル」である。母集団からの抽出比が統計的な意味を持ち、語彙表や漢字表などの作成に適する。もう一つは1サンプルの長さを最長で1万字以内とし、章や節などの文章のまとまりを1サンプルとする「可変長サンプル」である。テキストの論理構造の把握やテキスト内での役割を持った要素の分析などに適する。

2.2 留意すべき点

柏野ほか(2009)では、BCCWJに収録するテキストの抽出基準についてくわしく報告している。このうち、本調査に深く関わることとして、BCCWJの収録テキストには「非現代語」(BCCWJでは、明治元年より前に書かれた日本語と定義)が含まれるという点に留意する必要がある。BCCWJは現代日本語を収録しようとするものであり、「非現代語」は収録対象外となるものである。ところが、執筆年ではなく、出版年でサンプリングするため、生産(出版)サブコーパスにも、流通(図書館)サブコーパスにも、また一部の非母集団(特定目的)サブコーパスにも、出版年が該当すれば、たとえば、『源氏物語』や『平家物語』といった古典作品を扱うテキストが収録対象として入ってきた。古典作品そのものが本文であるテキストもあれば、本文中に一部分を引用するだけのものもある。いずれの場合も、「非現代語」がテキスト中にまとまって現れている場合は、BCCWJ収録テキスト対象外要素として収録しない、ということを行っている。しかしながら、一文単位ではテキストの完全収録をできる限り保証するために、インライン中に引用されているような「非現代語」は排除せず、そのまま収録している。よって、このような事情から本調査で使用する「流通実態(図書館)サブコーパス」を含むBCCWJには、「非現代語」も部分的に収録されているという点を十分に留意する必要があるが生じているのである。本稿ではこのタイプのものを「古典的非現代語」と呼ぶこととする。

また、いわゆる「歴史小説」「時代小説」などと呼ばれる、江戸時代以前を舞台とする文芸作品のテキストにも「非現代語」が現れるという点にも留意する必要がある。石井(1986)は、たとえば「おぬし、・・・でござるか」などは、「歴史小説なり時代小説なりに現はれるからと言つて、その小説の扱ふ時代の古代語と考へるのは、早計である。非現代語すなはち古代的言語を用いた作品においては、作家が古代的言語を創造し、読者がそれを享受する、といふ図式が想定できる。」と述べ、そういった享受と創造による「非現代語」が『源氏物語若紫』現代語訳や、日本文芸家協会『歴史ロマン傑作選』の会話文に多く現れることを調査分析し、報告している。本調査で用いる「流通実態(図書館)サブコーパス」を含むBCCWJにも、「歴史小説」「時代小説」などのテキストが収録されており、石井(1986)の言う享受と創造による「非現代語」もまた含まれているのである。石井(1986)を参考に、本稿ではこのタイプのものを「享受と創造の非現代語」と呼ぶこととする。

3. 調査方法

3.1 調査候補語の選定

『岩波国語辞典』の最新版である第七版は、まだ CD-ROM 版が未刊行であるため、検索に便のよい『岩波国語辞典』(第六版 CD-ROM 版)を用い、「古語的」あるいは「古風」と注記のある語を調査候補語として選定した。「古語的」と注記される語は、「いたく【痛く】(～する)」「いとど」など16語あり、「古風」と注記される語は、「あいやく【相役】」、「あとげつ【後月】」など、150語あった。

この時、たとえば次に示すように、「いたく【痛く】(～する)」のように、下位区分された特定の語義にだけ注記があるものもあれば、「あいやく【相役】」のように、語に注記があるものもある(太字表示は著者による)。

- いた - い
 - 一【痛い】神経に耐えがたいほど強い刺激を受けた感じだ。
 - ①刃物で手を切る、虫歯がうずく等、外力・病気で肉体や精神が苦しい。(略)
 - ②しまったと思うほど手ひどい打撃を受けたり、弱点を鋭く突かれたりして、つらい。(略)
 - 二《「一・く」の形で》はなはだしく、ひどく。「自分の不明を一・く恥じる」「一・く感心した」▽一とは別語源か。古語的。
- あいやく【相役】同じ役(についている者)。▽既に古風。

なお、「古風」の場合は、実際は、「古風」「既に古風」「やや古風」や、「古風な言い方」「古風な語」や、「～より古風」といったように注記の仕方に細かな違いが見られるが、「古風」を含むものはすべて調査候補語とした。

3.2 調査の手順

(1) 『岩波国語辞典』(第七版)の記載の確認

調査候補語の166語すべてについて、最新版の第七版の記述を確認した。「古語的」と注記のあった「いやちこ」、「古風」と注記のあった「かえり【回り】」「じする【治する】」「みやばら【宮腹】」の合計4語は、第七版未収録語となっていた。また、「それ【其れ】」は、第六版では(一)①(エ)にのみ「古風な言い方。」との注記があったが、第七版では、(一)①(エ)が「既に古風。」と若干修正され、(一)①(ウ)に「やや古風。」との注記が加わっているという違いが見られた。

(2) 調査対象語の選定

全文検索システム『ひまわり』[b]を用いて調査候補語の使用例を検索した。その結果、次に該当するものをよけ、それ以外を調査対象語として絞った。

当該の語や語義の区別がつけたい語

b) 詳細は、<http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/> を参照。

全文検索システム『ひまわり』を用いた BCCWJ の用例検索は、文字列検索となるため、調査候補語によっては、注記のつく語、あるいは下位区分されたうちの特定の語義の用例と、そうでない用例とが混在して大量に照合されてしまい、それらの判別が簡単にいかないものがあった。よって、それら次の26語は、今回は調査対象外とした。

古語的

こうべ【首・頭】、つつみ【堤】、ぶにん【補任】

古風

いっそ、う、うつ【打つ】、くにびと【国人】、さと【里】、しも【下】、じきげ【直下】、じゃ(ぢや)、しょせい【書生】、ぜんぶ【全部】、そち【其方】、それ【其(れ)】、たいじん【大人】、たいぜい【大勢】、つ【唾】、つかさ【司・官】、であう【出合う・出会う】、とうじ【当時】、とも、の、むやく【無益】、やうち【家内】、やくだい【薬代】

以上の27語をよけた、残り139語を調査対象語として、選定した。

(3) 調査対象語の使用頻度

調査対象語139語について、全文検索システム『ひまわり』によって使用頻度を求めた。

(4) 「現代語」としての用例か、「古典の非現代語」「享受と創造の非現代語」の用例かの判断

2.2節で述べたとおり、抽出した用例には、「古典の非現代語」「享受と創造の非現代語」と呼ぶことのできる、2つのタイプの「非現代語」としての用例も含まれてくる。そこで、(2)によって一定数以上の使用頻度が得られた語を中心に、「現代語」「古典の非現代語」「享受と創造の非現代語」のいずれの用例であるかを判別した。たとえば、「あんずるに【案ずるに・按ずる】」の用例の場合、次のとおり判断した。

- 仏御前は「つくづく物を案ずるに、娑婆の栄華は夢のうちの夢、たのしみさかえてもなにかせん」(「百二十句本」巻一〈義王出家〉)と言い、(中石孝、1920年代生まれ、『平家れくいえむ紀行』新潮社、1999年)→「古典の非現代語」
- 「正成は健在か。ならば案ずるには及ばぬ」護良はほっと安堵の吐息を洩らした。(森村誠一、1930年代生まれ、『太平記 上』角川書店、2002年)→「享受と創造の非現代語」

4. 使用実態の調査結果

(1) 『岩波国語辞典』(第七版)の未収録語

3.2節の(1)で述べた第七版未収録語4語のうち、「かえり【回り】」(回数・度数を表す、古風な助数詞。回かい。たび。)のみ、「蕎麦の三かえり」(藤村和夫、1930年代生まれ、『蕎麦屋のしきたり』日本放送出版協会、2001年)という用例があった。

ほかは、使用頻度0であった。

(2) 使用頻度0の語

上記であげた3語以外で使用頻度が0だったものは、「古語的」と注記のある語では表1に示す11語であり、「古風」と注記のある語では表2に示す48語であった。なお、語ではなく、下位区分された特定の語義にだけ注記があるものを、表中グレーで表示している。

今回の書籍テキスト約3,000万語という調査範囲において、たまたま使用されていなかっただけのものもあると思われるため、使用頻度0ということをもって、ただちに現代語としての用法が0であるとは言えないが、現代語としての使用傾向が見られにくいものであると言えるだろう。

表1 使用頻度0の「古語的」と注記のある語

おおみこと	【大御言】	つ	【津】	まがまがしい	【禍々しい・曲々しい・枉々しい】
おおみたから	【大御室】	ついな	【追儀】		
こうべ	【首・頭】	つつみ	【堤】	めづらか	【珍らか】
ししまのみち	【敷島の道】	ぶにん	【補任】	やたけ	【弥猛】

表2 使用頻度0の「古風」と注記のある語

あつかい	【扱い】	こわつき	【声つき】	なにがな	【何がな】
あつかう	【扱う】	じっしょう	【実正】	なにさま	【何様】
あとげつ	【後月】	しまつ	【始末】	にえぎも	【煮え肝】
いきせき		しろっばい	【白っばい】	によしよう	【女性】
おおみよ	【大御代】	しんがく	【進学】	ばうて	【場打て】
おもんみる	【惟る】	すすどい		ははじゃびと	【母者人】
かいしき		せつかく	【折角】	ひきあげ	【引(き)明け】
かくし	【隠し】	せんど	【先度】	ひきずり	【引(き)摺り】
かしこきあたり	【畏き辺り】	だいふ	【乃父】	ひろいあるき	【拾い歩き】
がな		たまざん	【玉算・珠算】	ひろう	【拾う】
からめる	【搦める・絡める】	ておもい	【手重い】	ぶじ	【無事】
かんぱつ	【簡抜】	てんうん	【天運】	まいる	【参る】
けいさい	【継妻】	どうりゆう	【同流】	まましい	【継しい】
けっこう	【結構】	とと	【父】	よがら	【世柄】
けんご	【堅固】	なぐさむ	【慰む】	ろうせい	【老生】
ごのう	【御惱】	なにがさて	【何がさて】	ろうだい	【老台】

(3) 使用頻度1以上の語

次に、使用頻度1以上であったものを示す。表3に「古語的」と注記のある7語を、表4に「古風」と注記のある76語を示す。表1, 2と同様に語ではなく、下位区分された特定の語義にだけ注記があるものを、表中グレーで表示している。

使用頻度が多かったものを多いものから順に10挙げると、いかん 448, そなた【其方】434, うせる【失せる】232, によにん【女人】174, わい 160, ものども【者共】

104, いでたち【出(で)立(ち)】77, いと72, いたく【痛く】66, はたまた【△将又】65である。

表3 使用頻度1以上の「古語的」と注記のある語

いたく	【痛く】	66	おおみたから	【大御室】	1		
いとど		3	めづらか	【珍らか】	5	まがまがしい	【禍々しい・曲々しい・枉々しい】
おどか		1	やわか		3		

表4 使用頻度1以上の「古風」と注記のある語

あいやく	【相役】	1	ごじん	【御仁】	41	とのご	【殿御】	7
あんずるに	【案ずるに・按ずる】	11	ごなた	【此方】	5	ないふく	【内福】	3
いかい		4	これ	【此(れ)】	2	なと		1
いかさま	【如何様】	8	ころおい	【頃おい】	2	ならぬ		5
いかん		448	さ		26	なんだ		21
いずれ	【何れ・孰れ】	5	ざ		3	によにん	【女人】	174
いっこう	【一向】	1	さしまねく	【差(し)招く・魔く】	3	にんじょう	【刃傷】	40
いでたち	【出(で)立(ち)】	77	さ		8	のう	(なう)	11
いと		72	じする	【辞する】	163	はたまた	【将又】	65
いな	【異な】	7	しだら		33	ひとしい	【等しい・均しい】	1
うせる	【失せる】	232	しゅつとう	【出頭】	1	ふうぎ	【風儀】	8
うちつけ		1	しゅんじょう	【春情】	3	ほうばい	【朋輩・傍輩】	33
おなじくは	【同じくは】	2	しよげん	【諸彦】	1	ほど	【程】	4
かしこくも	【畏くも】	5	しんずる	【進ずる】	15	ほんに	【本に】	46
かまえて	【構えて】	1	ずんと		4	まかりならぬ	【罷り成らぬ】	11
きこえる	【聞(こ)える】	1	せわ	【世話】	14	みんりよく	【民力】	19
ぎじょう	【議定】	7	そなた	【其方】	434	むさい		3
くちおしい	【口惜しい】	36	だいじない	【大事無い】	6	ものども	【者共】	104
ぐんばい	【軍配】	1	だんこん	【男根】	41	やくぎ	【役儀】	8
げせる	【解せる】	37	つくもがみ	【九十九髪・江浦草髪】	3	ゆうけい	【夕景】	15
げそう	【懸想】	8	つけびと	【付け人】	2	ゆめさら	【夢更】	1
けつく	【結句】	3	つけぶみ	【付け文】	5	よしな	【由無い】	2
こうじき	【高直】	1	つむ	【摘む】	2	よしなに	【良しなに】	7
こくぼ	【国母】	3	て		2	よち	【輿地】	8
ござなく	【御座無く】	3	どうぞ		2	よのぎ	【余の儀】	1
						わい		160

(4) 「現代語」「古典の非現代語」「享受と創造の非現代語」いずれの用例であるかの傾向

使用頻度が多い語の場合、「現代語」の用例がほとんどのものと、「享受と創造の非現代語」としての用例がほとんどのものと大きく分かれた。現代語のコアであるため、たまたまとられる可能性のある「古典の非現代語」だけで使用頻度が多くなるという可能性は低く、実際に使用頻度の上位語の中で「古典の非現代語」の用例が

目立つものはなかった。

使用頻度の多い上位 10 語のうち、「いかん、うせる【失せる】、いでたち【出(で)立(ち)】、いと、いたく【痛く】、はたまた」は、ほぼ「現代語」の用例であった。このうち「いと」はほとんどが「いとも簡単に」という用例であった。

一方、「そなた【其方】、よにん【女人】、ものども【者共】」は、ほぼ「時代小説」や「歴史小説」、あるいは歴史や古典の解説で用いられる「享受と創造の非現代語」の用例であった。なお、そのうち「ものども【者共】」は、現代語の用例も少し混じているのが目についた。

また、上位語の中では唯一「わい」のみが、「現代語」と、「享受と創造の非現代語」の用例がそれぞれ見つかった。

以下、「現代語」の用例が多かった語について、その例を示す。

- ここで泣いてはいかん、と咽喉の塊を懸命にのみ下しながら、(宮尾登美子, 1920 年代生まれ, 『朱夏』新潮社, 1998 年) → 「現代語」
- 不審な気持ちが消え失せて、とにかく言葉が交わしたかった。(浅倉卓弥, 1960 年代生まれ, 『雪の夜話』中央公論新社, 2005 年) → 「現代語」
- コミック誌から飛び出してきたようないでたちの男だ。(佐々木譲, 1950 年代生まれ, 『新宿のありふれた夜』角川書店, 1997 年) → 「現代語」
- セブン-イレブンの店にほしいものがなければ、いとも単に、買いにこなくなります。(鈴木敏文|述; 緒方知行|編, 『商売の創造』講談社, 2003 年) → 「現代語」
- 謹厳な紳士風の難波助教授だけに、三の線を披露したのがいたくプライドを傷つけたにちがいない。(辻真先, 1930 年代生まれ, 『迷犬ルパンの東京暗殺マニュアル』コスミックインターナショナル, 1995 年) → 「現代語」
- 恋なのか、忠義なのか、はたまた親子の恩愛なのか。(古井戸秀夫, 1950 年代生まれ, 『歌舞伎』新潮社, 1992 年) → 「現代語」

5. 「現代語」の用法の多い語の考察

国語辞典に「古語的」あるいは「古風」という注記がついているにも関わらず、「現代語」の用法の多い語について、使用頻度が最も多かった「いかん」を取り上げ、検討する。

「いかん」は、辞典に「現在では「いけない」より古風または強圧的。」との注記がついていた語である。そこで、「いけない」との比較を行った。

「いけない」は全部で 3,566 例あった。単純に数で比較すると「いかん」の 448 例に対し、圧倒的に数が多い。現代語の収録を目的としたコーパスにおいて、単純に用例数の大小によって現代語らしさの程度が言えるとすれば、「いけない」に対し、「い

かん」は現代語らしさが低いと言えそうである。

続いて、著者の生年の比較を試みた。著者の生年は、著作権処理の過程において、著者本人の回答が得られたものや、各種資料から明らかにできた場合に、何年代生まれであるかをコーパス収録書籍の書誌情報の一つとして記載されているものである。

「BCCWJ 領域内公開データ 2009」の収録時点で不明なものは記載がなく、また、複数著者の場合も一意に定めることができないが、「いかん」に関しては 359 例について、「いけない」に関しては 2,320 例について、著者の生年情報が得られていたため、試みに比較を行った。その結果を表 5 に示す。

あくまでも手持ちのデータで得られた傾向を述べることはできないが、「いかん」と「いけない」を比べると、「いかん」を用いる著者の年代が「いけない」を用いる著者の年代よりも若干高いようには見える。

用法の違いと著者の生年による違いとに相関があるかは、今後、より正確な著者情報を用い、数多くの語で比較分析を行う必要がある。今後の課題の一つである。

表 5 「いかん」と「いけない」の著者の生年の比較

いかん			いけない		
生年	用例数	%	生年	用例数	%
1850	0	0.0	1850	1	0.0
1860	4	1.1	1860	5	0.2
1870	0	0.0	1870	12	0.5
1880	1	0.3	1880	17	0.7
1890	19	5.3	1890	34	1.5
1900	9	2.5	1900	60	2.6
1910	9	2.5	1910	57	2.5
1920	50	13.9	1920	264	11.4
1930	89	24.8	1930	453	19.5
1940	86	24.0	1940	537	23.1
1950	48	13.4	1950	452	19.5
1960	38	10.6	1960	362	15.6
1970	6	1.7	1970	60	2.6
1980	0	0.0	1980	6	0.3

6. おわりに

岩波国語辞典に「古語的」あるいは「古風」という注記がついている 166 語に関し、現代語における使用実態を調査した。今回は、「BCCWJ 領域内公開データ 2009」に収

録されている約 3,000 万語分の「書籍」のテキストデータを調査対象に用いた。

コーパスにおいて実際の使用実態を明らかにすることにより、「古語的」「古風」とくられていた語は、「現代にほとんど使用されていないもの」「主に古典の引用で使用されるもの」「主に時代小説や歴史小説で使用されるもの」「古風であるが主に現代語として使用されているもの」など、より詳細な位相情報を、より客観的に付与できる可能性の高いことを明らかにすることができた。

今回は完成前のコーパスを使用した試行であったが、コーパス完成の暁には、コーパスを活用した国語辞典の位相情報の記述に関し、その方法論を確立させ、より充実した記述を進めていきたい。

謝辞 調査の補助をしてくださったお茶の水女子大学大学院生の田嶋明日香さんに感謝します。本研究は、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「代表性を有する大規模日本語書き言葉コーパスの構築：21 世紀の日本語研究の基盤整備」（平成 18～22 年度、領域代表者：前川喜久雄）による補助、並びに、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)「辞書用例の記述仕様標準化のための実証研究」（課題番号：20520428）の助成を受けたものです。

参考文献

- 1) 前坊香菜子 (2007) 「第 4 章 4.1 辞書における文体情報の調査」「日本語教育における「語の文体」をめぐる問題点—副詞を中心として—」早稲田大学大学院日本語教育研究科修士論文, pp. 19-33.
- 2) 宮島達夫(1997)「単語の文体的特徴」『松村明教授還暦記念 国語と国語史』明治書院, pp. 871-903.
- 3) 後藤斉(2000)「日本語コーパス言語学と語の文体レベルに関する予備的考察」『東北大学文学研究科研究年報』50 pp. 201-214.
- 4) 加藤安彦(1998)「辞典とコーパス」『日本語学』17(12), pp. 37-44.
- 5) 後藤斉(2002)「慣用句と自由な語結合の間 —「博する」を例にして—」『東北大学言語学論集』11, pp. 1-8.
- 6) 石川慎一郎(2006)「言語コーパスからのコロケーション検出手法—基礎的統計値について—」『統計数理研究所共同研究レポート』190, pp. 1-14.
- 7) 田野村忠温(2009)「コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発」『人工知能学会誌』24(5), pp. 647-655.
- 8) 荻野綱男(編)(2010)『特定領域研究「日本語コーパス」平成 21 年度研究成果報告書 コーパスを利用した国語辞典編集法の研究』.
- 9) 柏野和佳子・稲益佐知子・田中弥生・秋元祐哉 (2009)「第 4 章 対象外要素の排除指定」、『特定領域研究「日本語コーパス」平成 20 年度研究成果報告書 『現代日本語書き言葉均衡コー

パス』における収録テキストの抽出手順と事例』, pp. 66-88.

10) 石井久雄(1986)『古代的言語の享受と創造』（文部省昭和 60 年度科学研究費補助金による一般研究(C)研究報告書）.